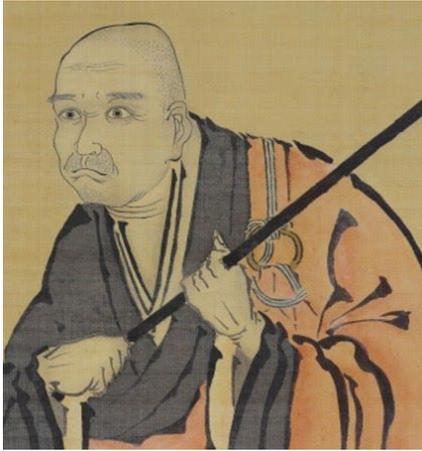


誠拙周檮 / Seisetsu Shucho

延享3年 - 文政3年 / 1746-1820



江戸後期 臨濟宗の僧 大用国師

伊予国下灘村（現愛媛県宇和島市津島）生

門人に清蔭音竺、淡海昌敬、泊船昌因、武陵承芝、拙庵元章

著作『忘路集』『誠拙語録』『虚行実記』『雲門関』『正法眼』等

詩偈に秀で人望厚く、歌人香川景樹は参禅の門人であり、松平不昧、伊達宗村の諸侯、画家の岸駒、医者福井榕亭らが親炙を受ける

『その道力においても、見識においても、社会的活動の幅広さにおいても、白隠系を代表した隠山・卓洲等の英豪に伍して遜色なかったばかりか、澆刺たる禅機においては彼らを凌ぐものがあった』

（150年遠諱に寄せた別峰朝比奈宗源老大師の辞）

-
- | | |
|-----------|--|
| 1753年 7歳 | 宇和島仏海寺の霊印不昧について出家 |
| 1762年 16歳 | 海岸寺の東嶽、龍山の荊林、岡山宝福寺の大休慧昉禅に掛錫
古月禅材下、武蔵永田東輝庵の月船禅慧の印可を受ける |
| 1783年 37歳 | 鎌倉円覚寺の師家に就任 |
| 1808年 62歳 | 相模金井玉泉寺不顧庵に退隠するも京都諸五山からのしきりの
招請により、南禅寺、相国寺、天龍寺で大衆を接化 |
| 1820年 74歳 | 拝請を受け京都相国寺の師家に就任 |
| 同年 6月28日 | 相国寺玉竜庵に示寂 世寿 76歳 |
| 1919年 | 相国寺心華院と円覚寺正伝庵、相州玉泉寺に分塔す
一百年遠諱に際し大正天皇より大用国師の諡号を賜る |
-

円山 応挙 / Maruyama okyo

享保18年 - 寛政7年 / 1733 - 1795



江戸時代中 - 後期の絵師 円山派の祖 丹羽生

江戸期の日本絵画を代表する絵師の一人

写生を重視した画期的な表現を生み出し優れた花鳥や風物を描いた

※（当時は師の手本に忠実に描くことが最重視されていた しかし応挙は現実の事物を細かに写生しそれを忠実に描き出すことで”気を宿す”ことを目指した）

作品の多くが国宝・重要文化財に指定されている

-
- 1733年 1歳 丹波国桑田郡穴太村(現在京都府亀岡市曾我部町穴太)に農業を営む丸山藤左衛門の次男として生まれる。
 - 1740年 8歳 臨済宗天龍寺派金剛寺に小僧として入る 幼少より絵を好む
 - 1749年 17歳 狩野派の画家石田幽汀について絵を学ぶ
 - 1759年 27歳 覗き絵=浮絵の制作をする
 - 1763年 31歳 宝鏡寺蓮池院尼公との係わりが深くなる
 - 1765年 33歳 パトロン・円満院門主祐常との親交が始まり傑作を生み出していく
 - 1766年 34歳 名を「応挙」と改名（これより前には夏雲、遷嶺等と名乗っていた）
 - 1775年 43歳 「平安人物志」に画家部第一位で記載され京都四条麩屋町西入に住むと記録されている
 - 1786年 54歳 「雪松図」(国宝、三井総領家)を描く
 - 1793年 61歳 この頃から病気がちとなる
 - 1795年 63歳 7月17日死去 四条大宮西入悟真寺に葬られる 法名円誉無之一居士 墓碑を妙法院宮真仁法親王が書く
-